

寒さ厳しといえども 春は近く
悲しみは深きといえども 気づけば
安らぎの 彼岸あり

2013（平成 25 年）2 月

しばらくお休みしていましたが「今月の言葉」を再開いたします。

毎月、月初めから 10 日位の間には、更新予定です。毎日の生活の心の糧となるような言葉を紹介していきますので、楽しみにご覧ください。

お釈迦さまのことを「仏陀」と呼ぶことは知られています。仏陀はインドのサンスクリット語「ブッダ (Buddha)」を漢字で表したもので、悟った人、目覚めた人を意味します。お釈迦さまのように大なる悟り（大悟）を得ることは、私たち凡人には難しいことですが、日常の生活の中の小さな「気づき」は、ちょっと視線を変えてみることで得られるものです。

例えば、この寒い毎日はいかがでしょう。 今年も、いつまでたっても寒い日が続きます。しかしながら、目を凝らして境内の桜の枝木を見ると、寒い中、桜の小さなつぼみを目にすることができます。ひと月前には目に留めることもできなかったのに、明らかにつぼみがふくらんだようです。こんなに寒いけれど、春は少しずつ近づいているのです。春の近づきを感じられれば、ただ寒いと背中を丸めるだけではなく、眼差しを木々や自然に向けることもできます。

「明けない夜はない」「春は必ずやってくる」これらの譬えは、人間が苦難にぶつかったときの励みになる言葉として紹介される場合が多いかと思われます。

私たちの周囲には、人を亡くして悲しみの極みにある人がいます。親を亡くした人、伴侶を亡くされた人、わが子を亡くした人、等々その悲しみの深さというものは、関わり合いが深ければ深いほど辛いものです。しかしながら、その悲しみは永遠に続く悲しみでしょうか。多くの場合「死んでしまった人とは永遠に会えない」といった思い込みから、悲しみをつのらせている場合が多いように思うのです。そこでいささか視線を変えて見てみましょう。

私達も死にゆくお互いです。永遠に生き続ける人はなく、みな限りあるいのちの中で、この世のいのちを終えていきます。それがこの世での別れです。お釈迦さまは、仏さまの世界に心に向けていく人々は、仏の世界、彼岸でまた会うことができることを示されました。また会えるお互いなのです。もちろん仏さまの世界は、目に見ることもできなければ、科学的に実証される世界ではありません。しかしながら仏さまの世界は、目には見えなくても母が私達を愛してくれたことを信じ願うことができるように、願って生きていくことが大切な世界なのです。この世の中とは、別れの切なさ、悲しさを味あわなければならぬ世界です。だからこそ、再会の楽しみが用意された、安らぎの彼岸のある世界であることを忘れないで生きてまいりましょう。

まだ寒さは続きそうです。お風邪を召されませぬように祈ります。 合掌

浄土宗・浄心寺（東京都文京区） <http://www.jyoshinji.jp/>

Copyright © Jyoshinji. All Rights Reserved.